

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町 65  
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175  
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 口会議・プログラム等予定

### 「愛と平和の聖霊に身をゆだねて」

(2026年5月25日以降・前回未掲載分)

管区事務所 総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』』と言われた。そう言って、手と脇腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。『あなたがたに平和があるように。父が私をお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす。』』(ヨハネ 20:19b-21)

私たちはイースター・復活日から50日後に聖霊降臨日を覚えます。そして世界の聖公会では、40日後の昇天日から聖霊降臨日まで「Thy Kingdom Come (み国が来ますように)」と、イエスさまの愛と平和を知ってもらいたい友人や家族・知人を覚えて祈る運動を続けています。

弟子たちはゴルゴタの十字架でイエスさまという大切な存在を失い、この先どうしたらよいのかという不安が渦巻く中、家の戸に鍵をかけ、心の扉を閉じていました。そんな弟子たちの所へ、イエスさまが現れて真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と二度も重ねて言われました。イエスさまはいつも私たちの真ん中に立ち「あなたがたに平和があるように」と言われます。この「平和(シャローム)」は、当時のごくごくありふれた、日常の挨拶の言葉でした。現代の私たちの言葉では「おはよう」「こんにちは」「元気だね」「また会いましょう」「気をつけてね」、関西弁では「まいど」という言葉になるのでしょうか。「お大事に」という気遣いの言葉にも似ています。単に戦争・紛争の無い状態を言うのではなく、心が癒されること、自然や隣人と仲良く付き合っていく状態を表す言葉です。そのことを分かっているにしても、なかなか実現できない私たちの弱さや至らなさゆえに、イエスさまは私たちに息を吹きかけ「聖霊」を授けてくださいます。

私たちが受ける聖霊は、人と人をつなぎ合わせる力です。弟子たちに聖霊が降ったとき、様々な国の言葉を話し始め、文化や習慣や言葉の違う人々が、聖霊の働きによって集められていきます。私たちの教会もそうです。聖霊は人々をつなぎ合わせて一つ

#### 5月

- 25日(月) 神学教理委員会〔管区事務所〕
- 26日(火) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議〔沖縄教会センター+Web〕
- 29日(金) 法憲法規委員会〔Web〕

#### 6月

- 2日(火) ナザレ委員会〔管区事務所〕
- 3日(水) 金融資産運用管理チーム会議〔管区事務所〕
- 4日(木) 財政主査会〔管区事務所〕
- 9日(火) ～11(木) 定期主教会〔聖公会神学院〕
- 10日(水) 文書保管委員会〔管区事務所〕
- 12日(金) 正義と平和・憲法プロジェクト会議〔Web〕
- 13日(土) 原発のない世界を求める週間 Zoom 対談〔Web〕
- 15日(月) 主事会議〔管区事務所〕
- 19日(金) ～21日(日) 沖縄週間/沖縄の旅〔沖縄〕
- 23日(火) セーフチャーチ・タスクチーム会議〔Web〕
- 23日(火) 正義と平和委員会〔Web〕
- 26日(金) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議〔Web〕
- 30日(火) 常議員会〔管区事務所〕

#### 7月

- 14日(火) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議〔Web〕

#### <関係諸団体会議・他>

- 6月4日(木) JCK キープ日本後援会総会〔立教大学チャペル会館〕
- 8日(月) 聖公会神学院参与会〔聖公会神学院〕
- 16日(火) ～17日(水) 日本聖公会婦人会会長会〔守口聖オーガスティン教会・大阪〕
- 22日(月) 日本宗教連盟 80周年記念式典〔東京〕
- 27日(土) ～7月5日(日) 全聖公会中央協議会 (ACC-19)〔ア

(次頁へ続く)

にしてくれる力、新しい共同体を作り出していく力でもあります。  
 私たちは、他者の悪い部分や至らなさがいつも目につき批判したくなりますが、それは自分にも同じような所があって、許せない自分が隠れているのかも知れません。自分たちとは違う劣った存在だと主張する卑劣な心の矛先は、少数者・マイノリティーに向けられることが多いことを、私たちは常に認識しておかなければなりません。様々な情報が行き交う現代社会の中で、何が

(前頁より)

イルランド・ベルファスト]  
 7月7日(火) 聖公会神学院長期計画プロジェクト[用賀]  
 14日(火) NCC常議員会[Web]  
 29日(水)～31日(金) 聖公会保育連盟全国保育者大会[栃木・鬼怒川]

本当の事で、何を大切にしなければならないかを見極める為には、一人ひとりの命の尊厳が大切にされることを求め、聖霊の働きを求めなければなりません。私たちは先ず、十字架の上で手を広げ、本当の愛と平和を実現する方法を示

してくださったイエスさまの姿を見つめ、人と人をつなぎ合わせてくださる聖霊の風通しをよくして、自分を愛するように他者を愛しゆるせますように、平和を実現させる知恵と力をお与えくださいと祈り・行動する者でありたいと願います。

□各教区

北関東

- ・第94回(臨時) 教区会 2026年5月14日(木) 表決提出締切 方法:書面による決議 議案:2025年度一般会計会計決算承認を求める件他

□関係諸団体

日本聖公会婦人会

- ・日本聖公会婦人会会長会議 2026年6月16日(水)～17日(木) 於:守口聖オーガスティン教会

《人事》

北海道

- |              |             |                                    |
|--------------|-------------|------------------------------------|
| 司祭 ヘレン木村夕子   | 2026年6月30日付 | 留萌キリスト教会管理牧師及び函館聖ヨハネ教会協働司祭の任を解く。   |
|              | 2026年7月1日付  | 函館聖ヨハネ教会牧師及び今金インマヌエル教会管理牧師に任命する。   |
| 司祭 ノア上平 更    | 2026年6月30日付 | 函館聖ヨハネ教会管理牧師及び今金インマヌエル教会管理牧師の任を解く。 |
|              | 2026年7月1日付  | 留萌キリスト教会管理牧師及び稚内聖公会(伝道所)協働司祭に任命する。 |
| 司祭 グレゴリー松井新世 | 2026年6月30日付 | 函館聖ヨハネ教会協働司祭の任を解く。                 |

東京

- |             |             |                                 |
|-------------|-------------|---------------------------------|
| 司祭 ミカエル李 相寅 | 2026年4月24日付 | 大韓聖公会ソウル教区から日本聖公会東京教区への入籍を許可する。 |
| 執事 ヒルダ藤田美土里 | 2026年5月9日   | 公会の司祭に按手される。                    |
| 司祭 ヒルダ藤田美土里 | 2026年5月9日付  | 聖マルコ教会副牧師に任命する。                 |

大阪

- |            |            |   |
|------------|------------|---|
| 司祭 ヤコブ松平 功 | 2026年5月1日付 | 司祭ヤコブ義平雅夫のもと第4主日守口聖オーガスティン教会の礼拝の協力を委嘱する。(任期:2027年3月31日まで) |
|------------|------------|---|

司祭 ヤコブ義平雅夫	2026年5月1日付	司祭ステパノ柳時京のもと第4主日大阪聖ヨハネ教会での主日礼拝の協力を委嘱する。(任期:2027年3月31日まで)
司祭 フランチェスコ成岡宏晃	2026年5月1日付	司祭ジョイ千松清美のもと第4主日東豊中聖ミカエル教会の礼拝の協力を委嘱する。(任期:2027年3月31日まで)
司祭 アモス金 頭昇	2026年5月1日付	司祭ペテロ金山将司のもと第3主日恵我之荘聖マタイ教会、第4主日聖ルシヤ教会の主日礼拝の協力を委嘱する。(任期:2027年3月31日まで)
司祭 バルナバ永野拓也	2026年5月1日付	司祭ペテロ金山将司のもと第1主日恵我之荘聖マタイ教会、第2主日富田林聖アグネス教会、第3主日聖ルシヤ教会、司祭ステパノ柳時京のもと第5主日大阪聖ヨハネ教会での主日礼拝の協力を委嘱する。(任期:2027年3月31日まで)
執事 ステラ・ミシェル大倉有紀	2026年5月1日付	司祭ヤコブ松平功のもと第4主日大阪聖アンデレ教会での主日礼拝の協力を委嘱する。(任期:2027年3月31日まで)
司祭 ウイルソン ウォーレン(退)	2026年5月1日付	司祭ヨハネ古澤秀利のもと第1主日と第4主日聖ガブリエル教会での主日礼拝の協力を委嘱する。(任期:2027年3月31日まで)
司祭 マルチン韓 相敦(退)	2026年5月1日付	司祭ステパノ柳時京のもと第1主日大阪聖ヨハネ教会での主日礼拝の協力を委嘱する。(任期:2027年3月31日まで)



## □司祭用ウエハース受付再開のお知らせ

機械の不調で長らくお待たせしておりました「司祭用ウエハース」は、制作ボランティアのみなさまのお働きにより、一定の在庫を確保することができましたので、お申し込み受付を再開いたします。

1回のお申し込みにつき、司祭用2箱・会衆用2箱までのお申し込みとさせていただきます。(会衆用のみのお申し込みの場合に限り、会衆用3箱までお申し込み可能)

ご入用の際は、管区事務所HPにあります 日本聖公会「ナザレの家」2.ウエハースについてのリンク先にあるGoogleフォームのご案内をご確認の上、お申し込みをお願いいたします。

ウエハース申し込みGoogleフォームリンク: <https://forms.gle/tsZX7z1dok1W9PRU6>

なお、教区でまとめてお申し込みいただく場合には、管区事務所までお問い合わせください。ご理解とご協力に感謝しつつ、安定してお届けできるように引き続き取り組んでまいります。どうぞよろしくお祈りいたします。

管区事務所総主事 司祭 エッサイ 矢萩新一、ナザレの家 問い合わせ窓口担当者

## 「彼女を記念して

### ～逝去された女性の教役者のレクイエムと分かち合いの会～」報告

女性に関する課題の担当者

クララ 吉谷かおる（北海道教区）

1998年に日本聖公会で女性の司祭按手が実現してから、あと2年で30年の節目となります。わたしたちは、これまでにモニカ石田みち子司祭（2007年8月・九州教区）、マリア山野繁子司祭（2024年1月・東京教区）、マーガレット渋川良子司祭（2025年2月・中部教区）の3名の司祭を神様のもとへお送りしました。もちろんのその前には、婦人伝道師として活躍された多くの女性の教役者がおられました。女性デスクではかねてより、先達である女性の教役者のお働きを覚えて感謝し、召命の物語を分かち合う機会をつくりたいと願っておりましたが、この度、中部教区のご協力をいただき、復活節を迎えての4月24日（金）に「彼女を記念して」と題して、逝去者記念聖餐式（レクイエム）と分かち合いの会を行うことができました。当日は、中部教区名古屋聖マタイ教会に、30名ほどの方が全国からご参集くださいました。

逝去者記念聖餐式は、笹森田鶴主教の司式、金善姫司祭、後藤香織司祭、土井宏純司祭の補式により執り行われました。またディーコン・パートを下条知加子執事、サーバーを川島創士聖職候補生、奏楽を上田亜樹子司祭が担当してくださいました。説教者の大岡左代子司祭は、マルコによる福音書第14章3節～9節「ベタニヤで香油を注がれる」の箇所から、規範とされる行為から逸脱することで非難を受けた女性と、この女性のしたことを強く肯定したイエスの姿を共感的に描き出してくださいましたので、一步踏み出す勇気を持った女性たちを「記念して」語り継ぎ、

後に続くようにとわたしたちも促され、励ましを受けました。1998年12月に渋川良子司祭の按手式が行われたこの大聖堂で、天の会衆とともに聖餐式をおさげして、世を去った主の証人たちとの交わりが保たれていることを実感し、深い慰めを得ることができました。

礼拝の後の時間では、ホールに会場を移して、分かち合いの会を行いました。当初は、まずこの20年の間にご逝去された石田みち子司祭、山野繁子司祭、渋川良子司祭のことを偲んで、先生方との思い出を語り合う時間を持ち、後半の時間では、女性の教役者のみなさまから、召命の物語を中心に少しずつお話をいただくことを予定しておりました。ところが、参加者のみなさまのお話が尽きず、思い出話が一巡する頃にはタイムアップとなってしまいました。石田司祭の思い出については、吉岡容子司祭が一文をお寄せくださり、その真率なお人柄について語ってくださいました。渋川司祭、山野司祭と親交が深かった方々は、とっておきのエピソードを紹介してください、先生方の現役時代をご存じない方や面識のない方も、それぞれの感想を語られ、泣いたり笑ったりの賑やかなひと時となりました。思い出を語り合い聴き合うことが、そのまま召命について語り聴くことにつながっていました。今回の参加者のお二人が寄せてくださった感想から、当日の雰囲気を感じていただけるのではないかと思います。わたくし自身は、10代での渋川先生との出会いが、ジェンダー課題に取り組むきっかけのひとつとなっているのですが、女性の

司祭接手は志願者の性のありかた(セクシュアリティ/性自認、性的指向など)を問わない接手への端緒を開くことでもあった、という思いを強くしました。今後、おひとりおひとりの召命の物語、長い物語をじっくりお聞きする機会を設けるように努めたいと思います。当日ご奉仕くださった教役者のみなさま、ご参加くださったみなさま、またこのレクイエムのためにご協力くださった管区事務所、中部教区をはじめ、参加者のためご配慮くださった各教区の関係のみなさまに、この場を借りて感謝申し上げます。

2028年に向けて、可能であれば、女性デスクやジェンダープロジェクトで企画を立てて、実行委員会を組む、女性の司祭接手30年の感謝プログラムを実施できればと考えています。この企画では、大韓聖公会の女性たちとの協働も進められるように願っています。日本聖公会も、大韓聖公会も、女性の聖職が増えている、という状況にはありません。どうしたら女性がリーダーシップを発揮できるようになるのかを問うことは、両国に共通の課題であるように感じています。この感謝プログラムの準備に入りましたら、全国の信徒・教役者のみなさまにご協力をお願いすることになりますが、どうぞよろしく願いいたします。

球根の中には確かに花が秘められていて、いつか新しいいのちが芽吹くことを信じてこれからも歩みを進めたいと思います。

## 「彼女を記念して」レクイエムに出席して

エリサベツ 大町美幸 (北海道教区)

北海道教区帯広聖公会からの参加でした。式中、山野繁子司祭が作詞された聖歌364番、487番が歌われました。ここに彼女がおられないことが信じられないという思いになったのはわ

たしただけではなかったと思います。あの静かな微笑みの陰にある強い愛と思想にわたしたちはどれだけ励まされてきたことでしょうか。礼拝の後の懇親会では、三人の司祭の思い出話に花が咲きました。山野司祭と一緒に司祭試験を受けられたという笹森田鶴主教のお話には涙が出ました。同じく山野司祭と一緒にニューヨークに行かれた大岡左代子司祭のお話には一緒に旅をした思いになり、飛行機の車輪が日本に着いた時の安堵感を共にしました。石田司祭、渋川司祭の思い出の中にもまるで自分がいるような錯覚をしてしまうような、悲しくまた面白いお話がたくさんなされました。亡くなった司祭たちの人生の中に自分を重ねてみる、そんなレクイエムだと思っています。過去女性フォーラムでお会いした方々とご一緒出来たのもうれしいことでした。これからは女性の司祭誕生30周年の記念の日を楽しみに毎日の務めに励みたいと思います。

## 「彼女を記念して」レクイエムに出席して

司祭 フランシス 下条裕章 (東京教区)

礼拝の中で、渋川良子司祭さんらのお名前が逝去者として呼ばれ、確かに彼女が天の住まいに召されたのだということを知られました。少年の時代に出会い、親しくしていただき、離れてはいてもいつでも訪ね合うことができる存在と感じ続けていたようです。

ホールに移って、関りのあった方々から、日本に生きる女性として、教役者そして日本聖公会で初めて女性たちの中から接手された司祭としてのお働きや人となりについて伺っていると、彼女の声そのままに聞こえてくるようでした。ともに過ごした日常やイベントでの懐かしい記憶と共に、笑顔の中に一人ひとりに寄り添って歩むようなやさしさや配慮があり、現実を踏まえて厳しい

言葉を口にされる姿を想い、また悔しさを語ってくださったときのお声も想い起されました。そして信仰者として立ち続けようとする彼女を支え、生かしてくださった神さまのみ旨を想い巡らすときともなりました。

これからも、私たち教会が、神と人々とともに歩み、やさしさと正しさを分かち合い続けられますようにと願いました。

(写真提供：吉谷かおるさん

女性に関する課題の担当者)



記念品として  
～京都教区信徒さん手作りのミモザのミニレターセット～



レクイエム参列者集合写真

# 《第一回 静かなひとときを

## ～オルガンの音を聞きながら～》 開催報告

ナザレ委員会

委員長 コルネリオ 八木 達郎（東京教区）

2026年5月1日、三鷹市の日本聖公会「ナザレの家」にて、近隣にお住まいの方々を対象に「静かなひとときを～オルガンの音を聞きながら～」と題して、オルガンコンサートと黙想の会が行われました。

開催の目的は、ナザレ委員会の任務のひとつである「土地・建物の利用を含む将来構想」の検討に際し、いかなる形になるにせよ、近隣にお住まいの方に「ナザレの家」がどういふところかを少しでも知っていただいていた方がいいのではないかと検討を重ねた結果、試みに礼拝堂だけを使用し、パイプオルガンの演奏を聴いていただき、その後施設の本来の目的である「黙想」

をしていただいていたということになったからでした。女子修道院だったので、いくら隣接地にお住まいの方とは言え、今まで敷地・建物内には入っていただくことは出来ませんでした。「ナザレの家」としては、初めての近隣の方に向けた行事で、事前に400枚ほどのチラシを近隣に配布、入口にはポスターを貼付しご案内しました。そしていらっしゃる方の人数、天候、催しの所要時間など検討を重ねて実施しました。

当日、開場は14時半、演奏および黙想は15時から16時の実施で、オルガニストには聖マーガレット教会の海宝良子姉にお願いしJ.Sバッハのコラールなどを演奏いただくことになりました。午前中の天候は雨で、来場者数が危ぶまれました。



ナザレの家 礼拝堂のパイプオルガン (左)



奏楽に聴き入る聴衆 (右)

たが、開始時間が近づくと14時過ぎからぼつぼつ人がみえ始め、開始15分前にはほぼ満席になりました。急いで補助椅子を運び込み、最終的には80人を超える方に来ていただきました。当初、万が一50人を超えるようであれば、二部を設けることも考えていましたが、補助椅子でなんとかなるようでしたので、一部のみで行うことができました。

演奏が終わる頃には午前中の雨が嘘のように青空が広がり、無事今回の企画を終えることができました。特にアンケートはとっておりませんが、途中退室される方は殆どなく、みなさん喜んでおられたようです。中庭や館内をご覧になり

いとおっしゃった方もいらっしゃいました。子供連れの方も何人かいらっしゃり、静けさが保てるか少し心配をしましたが子供たちも静かにしていたようです。

今回の企画は、あくまで修道院の礼拝堂がどのようなところで、そこで行われている黙想やナザレのパイプオルガンの演奏がどのようなものか地域の方々にその片鱗を味わっていただくための企画でした。引き続き元修道院の御心に叶う在り方を検討して行きたいと思います。

(写真提供：八木達郎さん

ナザレ委員会委員長)

## 京都教区海外情報部門企画

# 「フィリピン聖公会を訪ねる旅」報告

2026年3月19日～23日

司祭 エレナ 古本 みさ(京都教区)

はじめに

3月19日から23日にかけて、京都教区海外情報部門の企画として実施された「フィリピン聖公会を訪ねる旅」についてご報告いたします。まずは、管区の研修支援資金よりご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

海外情報部門では、コロナ禍以降、海外の聖公会を訪問し、現地の礼拝に参加するとともに、信徒間の交流を通して学びを深め、その中で得た良きものを自分たちの教会、教区、ひいては日本聖公会へ持ち帰ろうという企画を始めました。第1回は、一昨年1月に実施された「台湾聖公会を訪ねる旅」でした。第2回となる今回の訪問先はフィリピン聖公会であり、責任者である私を含

め、教区内の諸教会より8名が参加しました。参加者の半数が10代後半～20代前半の若い世代でした。

1日目：

3月19日、現地時間13時半頃にニノイ・アキノ国際空港に到着し、フィリピン聖公会管区事務所のガイ執事に出迎えていただき、車でケソン市へ移動しました。宿泊先は、管区事務所の至近に位置する新しいホテルで、各種プログラムへの参加にも大変便利な場所でした。夜には、管区事務所において、オーストラリアから来訪されていたAnglican Board of Mission (ABM) の方々も交え、夕食と夕の祈りを共にしました。国

や立場を越えて交わりの時を持つことができ、今回の旅の最初にふさわしい、豊かな交流のひとつとなりました。

### 2日目:

#### 首座主教との対談と神学校訪問、歴史に向き合う学び

翌日午前中には、本旅の大きなハイライトの一つである、ネスター・ポルティック首座主教との対談の時が持たれました。ご多忙の中、約3時間にわたり、フィリピン聖公会の歴史と現状について、熱意をもって丁寧にお話してくださいました。中でも、「R to G (Receiver to Giver: 受け取る側から与える側へ)」という標語のもと、他者への奉仕を重視しておられる姿勢が特に印象深く心に残りました。

その後、併設される聖アンデレ神学校を見学しました。約100名の神学生が在籍しており、図書館も非常に充実していて、フィリピン聖公会の力強い歩みと将来への希望を感じました。なお、滞在中には神学校での夕の礼拝に二度出席する機会も与えられましたが、その礼拝は非常に厳かであり、神学生たちによる合唱の美しさと力強さには深く心を打たれました。

午後には、私たちの要望により、マニラ市内のイントラムロス（スペイン統治時代の旧市街地）を訪れました。フィリピンが諸外国からの支配や侵略を受けてきた歴史を学ぶとともに、これまで十分に認識できていなかった日本軍による加害の歴史にも向き合う機会となり、平和について改めて深く考えさせられるひとつとなりました。

### 3日目:

#### 中央教区「聖十字教会」、「聖ルカ主教座聖堂」訪問

3日目には、もう一つの大きなハイライトである聖十字教会を訪問しました。中央教区に属するこの教会は、貧困状態にあるコミュニティの中に置かれ、多くの子どもたちが集い、日曜学校に加えて、学校教育や食事の提供といった働きも行

われています。訪問前には厳しい環境を想像していましたが、実際に現地を訪れて、その印象は大きく変えられました。私たちの訪問に合わせて、土曜日にもかかわらず特別にプログラムを実施していただき、子どもたちは元気いっぱい聖歌を歌い、真剣なまなざしで聖書のお話に耳を傾けていました。貧しい生活の中に見るかれらの天真爛漫な姿と輝く瞳は、私たちに人として大切な何かを改めて思い起こさせるものであり、深い感銘を受けました。

その後、聖ルカ主教座聖堂を訪問し、温かいおもてなしを受けながら、交流のひとつを持ちました。そこでも、フィリピン聖公会の方々の深い信仰と豊かなホスピタリティに触れることができ、感謝に満ちた時間となりました。



聖十字教会のこどもたち

### 4日目:

#### 主日礼拝出席と振り返り

22日の主日には、聖ヨセフ・聖マリア主教座聖堂にて礼拝に出席しました。約1,000名を収容する大聖堂には、ポルティック首座主教をはじめ、多くの聖職者・奉仕者が集い、荘厳な礼拝がさげられました。首座主教は説教の中で、当日の福音書に記されたラザロの復活を取り上げ、「Come out (出てきなさい)」というイエス様の言葉を引用しながら、紛争やエネルギー危機などによって覆われた世界の闇の中から、復活の光へ向かって力強く歩み出していくことの大切さを語られました。またこの日は、ちょうど平和の掬

擗の前に癒しの塗油が行われる第4主日でもありました。聖堂内にはいくつかの列が設けられ、一人ひとりが額に十字の形に油を塗っていただき、祈りを受けていました。さらに、聖堂内のスクリーンには式文や聖歌の歌詞、さらにはその訳文も映し出され、会衆が常に顔を上げて礼拝に参加できるよう工夫されていました。こうした取り組みは、日本聖公会においても大いに参考となるものであり、典礼の豊かさを深く感じる礼拝でした。

同日午後には、参加者全員で振り返りの時間を持ちました。濃密な日程の中で心に残ったことや受けた感銘を分かち合い、本訪問を単なる旅行で終わらせることなく、今後につなげていくための有意義な時間となりました。話し合いの結果、予算から生じた余剰金20,000ペソ(約54,000円)を、3日目に訪問した貧困地域の子どもたちを支えるコミュニティである聖十字教会へ献金としてお捧げすることを決定しました。

今後に向けて

今回の素晴らしい経験を一過性のもので終わらせるのではなく、今後の継続的な交わりへとつなげていくためにも、ポルティック首座主教より示された「R to G」の精神を胸に、それぞれの教会生活や宣教の働きに還元し、各教会の交わりと活動のさらなる活性化につなげていきたいと考えています。

これまで日本聖公会においては、中部教区がフィリピン聖公会とのつながりを深めてこられました。今回の訪問を通して、新たに京都教区としてのつながりが与えられたことは大きな恵みでした。この出会いを大切にしながら、今後さらに交流を広げ、継続的な関係として育んでいきたいと願っています。

(写真提供：古本みさ司祭)



大聖堂にてポルティック首座主教と共に



# 沖縄週間

ぬち たから  
**命どう宝**

2026年6月21日(日)~27日(土)

主よ、  
目を開けて  
いただきたいのです。

(マタイによる福音書 第20章33節)

沖縄週間は、日本聖公会全教会・教会が沖縄の現実に思いを寄せ、わたしたち自身が主の平和を求めて祈ることをその目的とします。  
沖縄の旅が19日(金)~21日(日)に開催されます。案内書をご覧ください。どうぞご参加ください。

日本聖公会 正義と平和委員会・日本聖公会沖縄教区

## 沖縄週間の祈り

歴史と生命の主である神よ、わたしたちを平和の器にしてください。  
嘆きと苦しみのただ中にあなたの光を、  
敵意と憎しみのただ中にあなたの愛と赦しをお与えください。  
私たちの出会いを通して悲しみの中に慰めを、痛みの中にいやしを、  
疑いの中にあなたへの信仰を、主よ、豊かに注ぎ込んでください。  
この沖縄週間を通してわたしたちを新たにし、  
あなたの示される解放と平和への道を歩む者としてください。  
わたしたちの主イエス・キリストのいつくしみによって、  
このお祈りをお献げいたします。 アーメン

### □「代祷表 2026年6月」について

ACP (Anglican Cycle of Prayer) 発行の代祷表(翻訳版)は、『管区事務所だより』の同封物として奇数月にご送付させていただいております。「代祷表 2026年6月」発行の際、2026年6月28日の主日における代祷管区名を誤って記載しておりました。お詫びし訂正をいたします。

(誤) 南アメリカ ⇒ (正) 南部アフリカ

管区事務所のHPには訂正版がアップロードされておりますが、念のため今月号の『管区事務所だより』に訂正版を同封いたします。お手数でもお手元の「代祷表 2026年6月」とお差し替えの上、ご活用いただけますと幸いです。どうぞよろしく願いいたします。 管区事務所

日本聖公会

100% 自然エネルギー

14 海の豊かさを守る

15 陸の豊かさも守ろう

# 地球環境

## のために祈る日

### 2026. 6/7

6月5日  
世界環境デーに  
最も近い主日

WORLD ENVIRONMENT DAY

6/7日 - 6/13日 正義と平和委員会  
原発問題プロジェクト主催

### 原発のない世界を求める週間

2026年企画 Zoom 対談 <無料配信>  
<事前申込不要>

原発問題プロジェクト  
原発のない世界を求める週間 2026

長年人権擁護活動や原発運動、反核運動に関わってこられた、  
名出さんと中道さんをお招きし、対談形式でお話を聞きます。

6月13日(土) 10:00 - 12:00

ゲスト: 名出真一さん ゲスト: 中道雅史さん

※ 詳細につきましては、別途のチラシやホームページをご確認ください。

<https://www.nskk.org/province/>  
<https://online.nskk-2026/>

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>  
 ☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。  
 comm-sec.po@nsk.org 広報主事(田村浩一) デスク宛て